

第6学年 外国語活動指導案

HRT 鈴木加奈子

- 1 題材名 Lesson17 Let's go to Sandwich Shop. ～サンドウィッチショップへ行こう～
- 2 題材について

(1) 題材観

来年度より完全に実施される新学習指導要領では、以下のように目標を定めている。

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

指導内容については、次のように定められている。

- 1 外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができるよう、次の事項について指導する。
 - (1) 外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体感すること。
 - (2) 積極的に外国語を聞いたり、話したりすること。
 - (3) 言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知る。
- 2 日本と外国の言語や文化について、体験的に理解を深めることができるよう、次の事項について指導する。
 - (1) 外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気づく。
 - (2) 日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気づくこと。
 - (3) 異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、文化等に対する理解を深めること。

本題材では、特に1(1)・2(2)を中心に指導を進める。

和田中学校区では平成20年、中学校区が一体となって英語教育の研究を進める「ゲイトウェイ・トゥ・イングリッシュ・ランゲージ (GEL)」の指定を県教育委員会から受け2年間研究を行ってきた。そこで開発した小中学校9年間を見通したカリキュラムにしたがって、コミュニケーション活動を中心とした指導方法を、今年度も実施していくこととした。

私たちの身の回りには、多くの外国のものがあふれている。そのような中で、外国に興味を持ち、学習したいと考える児童も増えてきている。本題材は、アメリカ特有の「サンドウィッチショップ」を取り上げる。日本の一般的なハンバーガーショップでは、注文したものがそのまま客に渡される。しかし、このサンドウィッチショップでは、自分の好きな具材を選んでオリジナルのサンドウィッチを注文することができる。これは、アメリカで主流の注文スタイルであり、生活習慣でもある。

今回は日本ではまだ馴染みの薄いサンドウィッチショップでの注文のやりとりを学習する。そして自分だけの「オリジナルサンドウィッチ」を作ることを通して、自分で欲しい食材を選択する買い方があることを知ることがねらいである。アメリカの注文スタイルを知ること、アメリカの文化や生活習慣に興味を持ち、今後の「世界の国々」の学習に発展していこう。また、選択して注文するスタイルのお店に行ったときは、注文を使用と思う気持ちを持つきっかけになると考える。

本時の授業では、これまで学習した野菜や肉類などを扱うことで、本題材をより身近に感じさせたい。また、店員とお客のロールプレイングを取り入れることで、5年生で学習したShoppingの学習の経験を取り入れながらコミュニケーションを図ることができる題材である。

(2) 児童の実態 (男子14名 女子6名 計20名 特別支援学級在籍2名を含む)

本学級の児童は、入学当時より外国語活動を実施してきた。日常的にも英語にふれる機会も多い。本校では5・6年生では、年間35時間の外国語活動を実施している。

外国語活動の時間では、ALTとの会話やゲームに楽しく参加する姿を見ることができる。一方、英語を苦手としたり、恥ずかしい気持ちからうまく表現できなかつたりする児童も増えてきた。

そこで、児童が興味を持ちやすくするために、単語の数を調整したり、簡単なゲームを利用して楽しめる時間を確保したりしている。また、ペアやグループでの活動も取り入れながら、話しやすい環境作りをしている。

(3) 指導観

上記に示した研究の視点・児童の実態より以下の点に着目して指導にあたりたい。

日本と外国の言語や文化について体験的に理解を深める活動の工夫 (国際理解の視点)

・ Introduction

本題材は、実際にアメリカで主流の注文方法を取り入れている。日本では、出来上がったものを注文し品物を得ているが、アメリカでは自分で好きな具材や味を選んで注文している。最近ではそのようなスタイルのカフェやファーストフードショップが増えつつある。アメリカの文化も身近になってきているが、このような注文に慣れず、自分の好みではなく、出されているオーダー表から選びがちである。

本時ではその注文の仕方を HRT と ALT がロールプレイをして児童に紹介する。また、ALT にアメリカでのサンドウィッチショップでの注文の様子を話してもらったり、HRT が日本のサンドウィッチショップで注文した経験やメニューについて話したりする。そうすることで、サンドウィッチショップでも注文の仕方を知り、諸外国の文化に一層興味を持てると思う。また実際に注文を試みようという気持ちを持てるだろう。

音声による理解可能な英語を多量に与え、慣れ親しませる活動の工夫

・ Word practice, Phrases practice

児童の実態から、大きな声で新しい語彙を練習したり、会話をしたりすることに抵抗を感じている児童もいる。そこで、リズムに合わせて発話したり、ALT のテンポのよい発音を取り入れたり、クイズを活用したりすることで、新しい語彙やフレーズの練習ができるようにする。繰り返しの練習が単調にならないよう工夫し、英語のリズムを感じ取れるようにしたい。また、フレーズのストレスの強弱にも意識させていく。その際は自然な速度での発話することを意識して指導をしていきたい。

自己表現活動の工夫

・ Greeting

自分で言葉を選んで会話させるために、ALTとHRTで分担して1対1で挨拶や質問を行う。その時には今まで学習した内容を取り入れ会話をしながら、英語活動の雰囲気作りをする。

・ Show & Tell

Show & Tell は、5年生から取り入れている。テーマを決めて、授業の初めに数人ずつ行っている。今回のテーマは「好きなこと・もの」である。ALT に伝えたい言葉を英語で教えてもらったり、自然な発音を習ったりする。また、聞き手を意識して分かりやすく話すために、ジェスチャーを入れたり実物を持って説明したりする。また、Show & Tell の後に、スピーチに関連した簡単なクイズを出し、話し手・聞き手のコミュニケーションを意識させていく。

・ Activity, Consolidation

サンドウィッチショップでの注文のやりとりを役割分担して体験する。そのときに、本時のTarget phrasesを使用するだけでなく、今まで学習してきている簡単な挨拶やお礼の言葉、わからないときに”pardon?”と聞くように授業の前に全体に声かけをしたり、活動中にALTとともに児童に助言したりする。

Activityで作ったサンドウィッチを紹介する。自分でどの食材を選び、どんなサンドウィッチができたか紹介する。その時にも、Show & Tellで学習したことを生かしながら、今まで習った英語やジェスチャーを加え伝えるようにする。また、紹介する場を班にすることで、話しやすい雰囲気を作る。

3 本時の指導

(1) 目標

- ・進んでゲームに参加し、意欲的にコミュニケーションを図ろうとする。
- ・サンドウィッチショップのシステムを知り、自分の作ったオリジナルサンドウィッチを友達に紹介する。

(2) 展開

過程 (時配)	活動と内容			形態	支援 (・) 評価 (☆)	資料
	児童	HRT	ALT			
1.Greeting (3)	挨拶をする。 ALT や HRT の質問に答える。	児童とともに挨拶をする。 児童一人一人に簡単な質問をする。 (T1・T2)	Greet students Ask some questions.	全 ・ 個	・ HRT, ALT で分担をして児童一人一人と会話し、英語活動の雰囲気作りをする。(T1・T2)	
2.Warm-up(7) ①Show & Tell	代表が自分の好きなことを紹介する。 Ex: I'm (). I like soccer. This is my ball. Thank you. ALT の質問に答える。	児童とともにスピーチを聞き、質問のヒントを出す。(T1)	Give a short quiz on the speeches. Ask two or three questions.	全	・ HRT・ALTは事前にスピーチの相談にのり、自信を持って取り組めるように助言する。(T1) ・スピーチの始めに、わかりやすいスピーチのためにポイント(アイコンタクト・声の大きさ・ジェスチャー・資料の提示等)を伝える。(T1)	
サンドウィッチショップへ行こう オリジナルサンドウィッチづくり						
3.New material (25) ①Introduction	HRT と ALT のデモンストレーションを見て説明を聞く。	ALT とデモンストレーションをしながら、2つのお店の違いを説明する。 (T1,T2)	Demonstrate how to order at the two shops.	全	・ハンバーガーショップとサンドウィッチショップのロールプレイをすることで、同じファーストフードショップでもシステムが違うことを伝える。 ・ALT にアメリカのお店での買い方の様子を説明してもらう。 ・HRT が実際に体験した様子をや感じたことを紹介する。 ☆サンドウィッチショップのシステムがアメリカでは主流で自分の好みに合わせて注文できることを知る。	絵カード
②Word practice	Target words を、ALT と練習する。 Target words : ham, chicken, tomato, lettuce, cucumbers, onions, green peppers, cheese, tuna, meatball	児童のそばにつき、声かけをする。 (T1,T2)	Pronunciation practice using picture flashcards.	全	・英語の発音を体感させるために、Target words を ALT と児童間でリズムカルに言い合うようにする。(T1)	フラッシュカード
③Activity game サンドウィッチショップ ゲーム	HRT と ALT がデモンストレーションを行う。その後、フレーズの確認をする。 2チームに分かれてゲームをする。	児童の活動の様子を観察し、時間配分をする。(T1)	Check the student's conversation.	全 ・ グ	・ゲームに入る前に、HRT と ALT はデモンストレーションをし、ルールの説明をする。フレーズやゲームのルールについて、わからない児童がいる場合は HRT が日本語で説明する。(T1・T2) ・ゲームでの会話を児童が使用できるように、児童の練習の場を確保する。 (T1・T2)	Phrase の掲示物 食材 カード お金 (ゲーム用)

	Target phrases の練習をしてゲームを行う。	活動の中で児童に声かけをし、会話ができているか確認する。(T1・T2)	.		<ul style="list-style-type: none"> ・会話が成立しているかどうか確認し、不十分の時はもう一度確認する。(T1・T2) ☆決められた表現を用いて会話をする。 ・特別支援の児童に支援カードを使用しながら支援する。(T2) ☆友達や ALT と Target words や Target phrases を使用しながらオリジナルサンドウィッチを作り、楽しくコミュニケーションをし合う。 	支援カード	
	<p>①店員と客にわかる。</p> <p>②店員役は二人ペアになる。客役はお店に行き、自分のほしいサンドウィッチを注文する。S1・・・店員 S2・・・お客</p> <p>③一人三品まで選び、お金を支払う。(1つ1ドル)</p> <p>S1: May I take your order?</p> <p>S2: Yes, chicken, tomato, and lettuce, Please.</p> <p>S1:3 dollars, please. S2: OK.</p> <p>S1: Here you are. Thank you. See you. S2: See you</p>						
4 Consolidation(4)	グループごとに作ったサンドウィッチを紹介し合う。	各班を回り、児童の活動を観察したり声をかけたりする。(T1・T2)	Check the student's sandwiches and conversations	グ	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介する時に今まで習った英語を使うよう助言しながら各グループを ALT と回る。(T1・T2) 		
5.Phonics(5)	Rの文字を練習し、発音がRならRの文字を、間違っていたら×を書く。	ALTに続き児童とともに発音したり、児童に声をかけたりする。(T1)	Teach about “R” and pronunciation.	全	<ul style="list-style-type: none"> ・理解できない児童がいる場合は、繰り返し発音しながら進める。 	プリント	
6 Greetings(1)	・挨拶をする。	・児童とともに挨拶をする。	Greet students. Good bye. See you.	全			